平成 30 年度
全国私立中学高等学校 私立学校専門研修会
イノベーション教育（グローバル・ICT 活用）研究部会
実施案内

一般財団法人日本私学教育研究所　主催　／　日本私立中学高等学校連合会　後援

◆ 研究のねらい ◆

協創力を育む未来の学び
～ICT による社会変革を見据え、未来の教育を考える～

当部会では、急速に変化するグローバル社会の中で世界に先駆けて私学が教育の先鞭をつけて行くために、教育のイノベーションを研究することを目的としている。昨年度は、人工知能（AI）研究者、プログラミング教育の実践者、企業人を迎え、AI はどのような新しい価値を生み出しているのか、プログラミング教育はどうあるべきか、未来の学びと働き方などについて、意見を交わし、考察を深めた。

今年度の当部会は、昨年度の議論でテーマとなった「創造性」に加え、ICT 技術・AI により大きく変化する社会を生きていく上で欠かせない「協働」「協創」の視点からも未来の教育について考えていく。

始めに、当部会専門委員長である平方邦行・工学院大学附属中学高等学校校長より変容する社会で活躍する人材を育てる教育について講演を行う。続いて、昨年度当部会でパネリストとして登壇し好評を博した横塚裕志氏を講師に迎え、ICT によるこれからの社会・産業の変化と求められるイノベーティブ人材についての基調講演を行う。パネル・ディスカッションでは、ベンチャー企業の経営者らを迎え、午前中の講演を受けて研究のねらいを軸に学校教育の課題、これからの教育や教員・生徒のあるべき姿、アントレプレナーシップ教育などについて意見を交わす。更に、パネリストと参加者による意見交換会を行う。最後に全体の総括として、ラップアップで研修会を振り返り、全体で意見を共有し、今後の教育活動へつなげたい。

当研修会が新しい社会に向けた教育のあり方を考える一助となれば幸いである。

◆会　　期◆　2019 年 2 月 16 日（土）
◆会　　場◆　NS 会議室「3－J」（東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号　新宿ＮＳビル 3 階）○新宿駅「南口・西口」より徒歩 7 分
◆募集人数◆　50 名
◆参加対象◆　理事長、校長、副校長・教頭、グローバル・ICT・キャリア教育等担当及び一般の教員
※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校
◆参 加 費◆　17,000 円（昼食費含む）
◆講　　演◆　演題　**「変容する社会で活躍するために」**
講師　**平　方　邦　行**　工学院大学附属中学校高等学校　校長／当研究所　副理事長・
イノベーション教育（グローバル・ICT 活用）研究専門委員長
◆基調講演◆　演題　**「「I think」と言える日本人を増やしたい！」**
講師　**横　塚　裕　志**　東京海上日動システムズ株式会社　顧問／デジタルビジネス・イノベーションセンター　代表
◆パネル・ディスカッション◆
パネリスト　**水　野　雄　介**　ライフイズテック株式会社　代表取締役 CEO
安　部　敏　樹　一般社団法人リディラバ　代表理事
岡　部　憲　治　工学院大学附属中学高等学校　カリキュラム・マネジメント・リーダー
コーディネーター　**増　渕　賢一郎**　JIMBA 株式会社　代表取締役
テーマ　「協創力を育む未来の学び」
○現在ビジネス界で起こっている変化と求められる人材　○企業は ICT、AI を使ってどのような未来を描いていくのか
○アントレプレナーシップ教育とアクティブ･ラーニング、PBL　○生徒達が新たな時代を自分らしく生き抜くために、どのような教育が必要か
◆ラップアップ◆　**福　原　将　之**　株式会社 FlipSilverlining　代表取締役／教育・ICT コンサルタント
◆日　　程◆　※プログラム・内容は変更となる場合があります。

時刻	9:30	10:20	11	12:30	13:30	14:45	15:35	16:45	17
2019年 2月16日(土)	受付	開会式	講演	基調講演	昼食	パネル･ディスカッション	意見交換会	ラップアップ	閉会式

◆講演◆

☆演題「変容する社会で活躍するために」
講師　平方　邦行（ひらかた　くにゆき）
工学院大学附属中学高等学校　校長／一般財団法人日本私学教育研究所　副理事長・イノベーション教育（グローバル・ICT 活用）研究専門委員長

◆基調講演◆

☆演題「「I think」と言える日本人を増やしたい！」
講師　横塚　裕志（よこつか　ひろし）
東京海上日動システムズ株式会社　顧問／デジタルビジネス・ イノベーションセンター　代表

東京海上日動火災で CIO を勤め、東京海上日動システムズ社長を経て退任し、NPO である「デジタルビジネスイノベーションセンター」を 2016 年 5 月に立ち上げ、日本の大手企業にイノベーションを起こすべく、取り組んでいる。並行して、情報サービス産業協会の会長として、ソフトウェア産業のイノベーションにも尽力している。しかし、日本の動きはかなり鈍く、世界からは相当の周回遅れになっており、危機感をさらにつのらせている。

◆パネル・ディスカッション／意見交換会◆

テーマ　「協創力を育む未来の学び」
- 現在ビジネス界で起こっている変化と求められる人材
- 企業は ICT、AI を使ってどのような未来を描いていくのか
- アントレプレナーシップ教育とアクティブ･ラーニング、PBL
- 生徒達が新たな時代を自分らしく生き抜くために、どのような教育が必要か

パネリスト
水野　雄介（みずの　ゆうすけ）　ライフイズテック株式会社　代表取締役 CEO
安部　敏樹（あべ　としき）　一般社団法人リディラバ　代表理事
岡部　憲治（おかべ　けんじ）　工学院大学附属中学高等学校　カリキュラム・マネジメント・リーダー

水野　雄介:1982 年、北海道生まれ。慶應義塾大学理工学部物理情報工学科卒、同大学院修了。大学院在学中に、開成高等学校の物理非常勤講師を2年間務める。その後、株式会社ワイキューブを経て、2010 年、 ライフイズテック株式会社を設立。14 年に、同社がコンピューターサイエンスや ICT 教育の普及に貢献している組織に与えられる“Google RISE Awards ”に東アジアで初の授賞となるなど世界的な注目を浴びている。「日本の IT 界にイチロー並みの人材を送り出す！」を目標に世界を駆け回る日々を送っている。著書に、「ヒーローのように働く 7 つの法則（角川書店）」。（会社 HP より）

安部　敏樹:1987 年京都府生まれ。2006 年東京大学入学。大学在学中の 2009 年に『リディラバ』を設立、2012 年に法人化。KDDI∞ラボ最優秀賞など、ビジネスコンテスト受賞歴多数。現在は、東京大学で、大学１～２年生向けの「社会起業」をテーマとした講義を持つ。また、東京大学大学院博士課程（専門領域は複雑系）に所属し、研究活動にも従事している。（会社 HP より）

コーディネーター　増渕　賢一郎（ますぶち　けんいちろう）　JIMBA 株式会社　代表取締役

1991 年慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、石油精製および石油化学プラント建設を主な事業とする千代田化工建設(株)に入社し、法務部門でキャリアをスタート。その後、2018 年 5 月まで 21 年間在籍したアドビシステムズ(株)で、法務、営業企画、教育市場マーケティングを担当。アドビシステムズで教育市場マーケティングに 11 年間従事する間、一貫して、国公私立の高等学校、大学、専門学校における創造性の育成の喫緊性を訴え続ける。
2018 年 6 月に企業および教育機関のブランディング、マーケティング機能の受託、新規事業の立ち上げ支援を行う現在の会社を設立し、鋭意活動中。

◆ラップアップ◆

講師　福原　将之（ふくはら　まさゆき）
株式会社 FlipSilverlining　代表取締役／教育・ICT コンサルタント

1982 年生まれ、理学修士。東京大学大学院を修了後、ICT を活用した科学教育の可能性を模索し、物理教育のアプリ開発に従事。IT 企業の取締役最高技術責任者･経営コンサルタントを経て、2013 年 10 月に株式会社 FlipSilverlining を設立。ICT 教育支援アプリの開発や科学･プログラミングを題材にしたオリジナル教材の開発、宇宙･天文教室･サイエンスカフェの開催などを行う傍ら、小学校･中学校･高校の教育コンサルタントとしてアクティブ･ラーニングと ICT の導入を精力的に支援している。首都圏模試センター･データサイエンスフェロー、GLICC フェロー。

◆講師・指導員（順不同）◆

横　塚　裕　志（東京海上日動システムズ株式会社　顧問／デジタルビジネス・イノベーションセンター　代表）
水　野　雄　介（ライフイズテック株式会社　代表取締役 CEO）
安　部　敏　樹（一般社団法人リディラバ　代表理事）
岡　部　憲　治（工学院大学附属中学高等学校　カリキュラム・マネジメント・リーダー）
増　渕　賢一郎（JIMBA 株式会社　代表取締役）
福　原　将　之（株式会社 FlipSilverlining　代表取締役／教育・ICT コンサルタント）
吉　田　　晋（富士見丘中学高等学校　理事長・校長）
中　川　武　夫（一般財団法人日本私学教育研究所　所長）

◆専門委員・客員研究員・指導員（順不同）◆

平　方　邦　行（工学院大学附属中学高等学校　校長）
大　羽　克　弘（千葉英和高等学校　理事長・校長）
須　藤　　勉（東京私学教育研究所　所長）
山　中　幸　平（学校法人山中学園　理事長）
山　﨑　吉　朗（一般財団法人日本私学教育研究所　主任研究員）
川　本　芳　久（一般財団法人日本私学教育研究所　事務局長）

◆会場案内◆　NS 会議室「3-J」　　※JR・京王・小田急新宿駅下車南口・西口より徒歩７分

◆ 参加申込み方法 ◆

1．「参加申込書」に必要事項をご記入の上、下記申込み先に FAX または郵送でお送り下さい。
お電話での申込みは受け付けません。

①申込み先

一般財団法人日本私学教育研究所・私立学校専門研修会係　宛
〒102-00073　東京都千代田区九段北４-３-８　市ヶ谷 UN ビル６階
TEL 03-3222-1621　FAX03-3222-1683 ホームページ http://www.shigaku.or.jp/

②申込み締切日　**2019 年２月８日（金）**必着

2．申込みは先着順に受け付けます。募集人数をこえた場合は期日前でも締切りとなることがあります。
（申込みを締め切った場合は当研究所ホームページでお知らせいたします。）

3．参加申込書受付後、「参加確認証」および「参加費等請求書（コンビニ払込用紙）」をお送りします。
「参加確認証」は、研修会当日受付にご提示下さい。
※申込み後、２週間以内に上記の書類が届かない場合は電話にてご連絡下さい。

◆ 参加申込後の手続きおよび注意事項 ◆

1．参加費（17,000 円）は、「参加費等請求書（コンビニ払込用紙）」払込用紙で、指定されたコンビニエンスストアでお振り込み下さい。なお、参加費の領収書は「払込受領書」をもって代えさせていただきますので、大切に保管して下さい。

2．参加申込み後のキャンセル・欠席等については、必ず FAX にて日本私学教育研究所へご連絡下さい。
①キャンセルの場合は、「キャンセル確認書」を FAX にて返信いたします。
②変更の場合は、「参加確認証（再発行）」を郵送いたします。
ご連絡後に上記書類が届かない場合は、必ず電話にてご確認下さい。

3．参加費の返金・キャンセル料は下記の取り扱いといたします。

２月８日（金）迄のご連絡	２月９日（土）以降のご連絡及び無断欠席
事務手数料 1,000 円を差引いた参加費を返金いたします。	参加費の返金はできません。研修会資料等の発送をもって代えさせていただきます。参加費未払いの場合は、キャンセル料をして全額（17,000 円）を申し受けます。天変地異や自然災害によるキャンセルの場合は、状況により対応しますのでご相談下さい。

◆ 個人情報の取扱いについて ◆

当研究所では、参加される先生方の個人情報は、厳重に管理・保護の上、その取扱いについては、法令その他の規範を遵守し、細心の注意を払います。参加申込書にご記入いただく個人情報は、参加確認証および研修会参加のために必要な書類の送付、実施要項の名簿の作成、当研究所の各種研修会開催等の情報の送付、また何らかの理由で研修会に参加される先生方に連絡する必要が生じた場合のみに利用いたします。

●傷害保険について
本研修期間中の参加者等の傷害保険には、加入いたしませんのでご承知置き下さい。

一般財団法人日本私学教育研究所　行
FAX 番号　03-3222-1683

【申込締切日：2019年2月8日（金）必着】

平成３０年度 全国私立中学高等学校 私立学校専門研修会

イノベーション教育【グローバル・ICT 活用】研究部会
参 加 申 込 書

＿＿＿＿年＿月＿日

参加者氏名	（ふりがな）	職 名
	〔男 女〕	
参加者連絡先	☆緊急の場合、確実に連絡が取れる携帯電話番号、自宅電話番号等をご記入下さい。	
メールアドレス*		
参加者氏名	（ふりがな）	職 名
	〔男 女〕	
参加者連絡先	☆緊急の場合、確実に連絡が取れる携帯電話番号・自宅電話番号等をご記入下さい。	
メールアドレス*		

＊今後、当研究所からの研修会のご案内等のメール配信をご希望の方は、メールアドレス(携帯電話のメールは不可)をご記入下さい。
◎３名以上の申込みの場合は本申込書をコピーしてお申し込み下さい。

学校名		
	学校区分	1．中学校　2．高等学校　3．中高併設校　4．中等教育学校 A．男子校　B．女子校　C．共学校（含む男女別学校）
学校住所	〒 TEL　（　）　FAX　（　）	
※上記参加者本人または学校住所以外への送付を希望する場合は、通信欄に送付先・受取人氏名をご記入下さい。		
アンケート	講師・パネリストへの質問事項・興味をお持ちのテーマ等がございましたらご記入ください。 時間の都合上、ご記入いただいた質問に回答できない場合もございます。ご了承ください。	
通信欄		

◇ FAX または郵送でお申込み下さい。	受付No.	